

高校3年生

「生き方」を考える 高校三年生の「総合人間科」の授業

山 田 孝・寺 井 一
川 合 勇 治・丹 下 容 子
原 英 俊・福 谷 敏

【抄録】 「総合人間科」における高校3年間の締めくくりは、「生き方」である。本校の「総合人間科」で成果が得られていると考えられるのは、「生き方」を中心に置いて取り組んでいるからであると思われる。また、今回の研究開発のテーマである「キャリア形成」とも密接な関係にある高校三年生の「総合人間科」の取り組みについて紹介する。

【キーワード】 「生き方」 系統別グループ 学外講師 スピーチ キャリア形成

はじめに

高校三年の「総合人間科」テーマは、「生き方を探る」である。「総合人間科」の授業を通じて、自らの生き方にについて考え、進路選択という一つのテーマから自分の課題を見つけ調査・研究を行うことを目的としている。高校生活の最後として、「自らの生き方」を振り返り、将来を切り開く目的でこのテーマが設定されている。

1. 授業のねらい—キャリア形成との関連

高校三年生は、自分の進路と直面し、「生き方」を考える時期である。「キャリア形成」という点から言えば、まさに進路・生き方に直結した学年といえる。また、高校生活での「総合人間科」の成果をまとめる学年でもある。さらに、「総合人間科」では進路問題を個人の問題とせず、仲間・グループと検討することにより、実りのある進路選択・生き方について考える場とした。このために、進路意識や動機付けを高めるために、フィールドワークや学外講師の方との交流をもうけ、最終的には自分の考えをスピーチにまとめ発表することとした。

2. 年間計画

- 4月15日 オリエンテーション「生き方」アンケート実施
- 5月 6日 系統別グループの結成—グループでのディスカッション
- 5月20日 フィールドワークの訪問先を検討—系統別グループ別

- 6月 3日 フィールドワークの訪問先を検討・学外講師の検討人選
- 6月15日 フィールドワーク実施—平日のLT 木曜日の午後に一ヵ所訪問
- 6月17日 フィールドワークの報告会・お礼状の作成
- 7月 1日 学外講師—ゲストティーチャー「生き方」「職業選択」「仕事の内容」等について、お話交流会の実施。
- 7月15日 これまでの自己評価・感想まとめ
- 9月30日 オリエンテーションスピーチの取り組み方について
- 10月 7日 スピーチの準備・作成 その1
スピーチ原稿づくり—国語表現の授業と協力して
- 10月21日 スピーチの準備・作成 その2
- 11月 4日 スピーチ発表会 系統グループ別
「生き方」について自分の考えをまとめ発表する
全体スピーチの代表を選出
- 11月18日 全体スピーチ 体育館にて
- 12月16日 報告書完成

3. 系統別グループによる個人学習の実施

高校三年生では、「総合人間科」の学習形態を個人学習とし、進路選択・生き方に関連したグループを編成して調査・研究する体制をとった。6人の担任団で指導教官制をとるため、6グループを設定し、生徒の希望をとり系統別グループを発足した。系統別グループは、人文・社会科学系を二グループ。工学・理学系グループ、農学・保健医療系グループ、教育・体育系

グループ、芸術・専門学校系グループとした。人文・社会科学系は、語学系中心のグループと社会学系中心のグループとした。各グループ20名程度として、話し合い交流がしやすいように配慮した。あくまでも、進路や生き方の問題を個人の問題とするのではなく、仲間との交流・励ましの中から自らの生き方を考えることを大切にした。

4. フィールドワーク

フィールドワークでは、各人の「生き方」や「進路選択」に関する場所を設定し、自分の研究テーマについて調査研究をしてくるものである。そして、フィールドワーク自体は、単なる体験や、見学ではなく、明確な研究テーマを設定して調査研究し、最終的には研究した内容を発表することが目的である。

訪問先については、大学の研究室や企業、新聞社等から外資系の販売店の名古屋支店、現在働いている方に直接インタビューするなど、それぞれの研究テーマにふやさわしい場所を訪問している。

フィールドワークにより、進路意識を高めたり、実際に研究室を訪問することで学ぶ意欲の高まりを見せる生徒も現れた。一方、職場訪問により現実の仕事内容を知り、自分の考えの甘さを痛感してきた生徒もいた。これも、教室の中だけでは学ぶことのできない生きた学習といえる。

訪問先例

名古屋大学文学部・教育学部・理学部・農学部 南山大学 藤田保健衛生大学など東海地方・愛知県内の大学・研究室など

ルイ・ヴィトン名古屋直営店 鍼灸専門学校 音響会社 学校の教員 新聞社

経理事務所 スポーツ用品店 法律事務所 直接仕事に関わる場所など

学外講師の紹介（生徒に配布した紹介文より）

細見さん	中部品質管理協会 企業の人材育成相談などがお仕事です 「異文化コミュニケーション」について ロールプレーゲームから、自分に対しての「気づき」へ
早瀬さん	名古屋大学工学部電気工学科 お話は「君のゴールは」 同大学工学部博士前期課程終了 青年海外協力隊でタイに派遣 豊田通商入社 米国サンノゼ駐在（1997～2000）
福山さん	豊田自動織機製作所 経理部 法学の話と経済に関して テーマは「なんでも興味をもって生きよう」
安藤さん	早稲田大学卒業後 名古屋鉄道に入社 駅員・車掌を経験後、ホテル建設の仕事などを経て現在の損害保険会社の代理店に出向中 お話は、「世界放浪記－世界を見てきたからわかる日本」

フィールドワークの感想より

- ・自分が疑問に思っていたことがほとんど解決できた。自分の知らないことも沢山知れてすごくためになった。それに学校を案内していただいてすごくよかったです。
- ・大学のことを授業、構造からたくさん教えていただいて、すごくよく勉強になった。
- ・全寮制で来年は二人しか知らない予定。資格を取って一人前になるには5年～10年かかるらしい。とても大変な仕事だと言うことが分かった。
- ・すごく緊張した。自分の考えが甘かったと反省している。自分は、この会社では働けないし雇ってもらえないと思った。社会の厳しさを知った。華やかに見てもとても大変な仕事だと言うことが分かった。
- ・今決めなきゃいけない、学校に入ったらやり直しがきかないって、勝手に思いこんでいたけど、とりあえず入ってもやり直せるし、それもありだなとお話を聞くことができた。

5. 学外講師—ゲストティーチャーとの懇談

学外講師の方による特別授業では、講師の方の「生き方」や「進路選択」の決定のしかた、実際の仕事の中身についての交流を目的とした。学外講師として、12の方に講師=ゲストティーチャーお願いし、できるだけ少人数のグループとして、聞くだけではなく主体的に参加できるように工夫した。基本的には、受講の希望調査を実施して、その結果第一希望を尊重してグループ編成したので、多いグループは20人から少ないグループでも7～8人となった。講師の方々は、系統別グループを意識して、できるだけ全てのグループに関連のあるように人選を心がけた。

金さん	韓国済州島生まれ 大学卒業後日本に留学 在日経験6年 名古屋大学文学研究科日本語学講座
速水先生	本校校長 心理学のお話
加藤さん	本校の卒業生 幼稚園の先生 教師、今年で2年目
副島さん	本校の卒業生 メルコ株式会社 元プログラマー コンピュータ（パワーポイント）を使用してお話をしてくれます
堀田さん	本校卒業生 名古屋大学工学部4年生
渡辺さん	看護婦 中村日赤の婦長さん 看護婦の実際の仕事と看護婦になるための道筋のお話
奥山先生	農学部教授 環境問題と農業と生き方
水野さん	東京生まれ愛知教育大学卒業 音楽活動の他N H K ドラマ出演するなど多岐にわたる活動をしている。 主な出演作品オペラ「ヘンデルとグレーテル」「魔笛」 名古屋音楽学校・県立高校講師

・ 加藤さんお話の感想

とても大変な仕事だと感じた。今までには、なんとなくしか知らなかつたが、実際に働いている人の話を聞くとまるで違つていて。ピアノと歌の重要さも感じた。私には、できない仕事だと思う。

児童福祉士になるのにも必要だろうか。

・ 早瀬さんのお話の感想

自分がやりたい事をずっと仕事としてやっていらっしゃるので、すごい尊敬しました。今だからやれる事って言うのを、まず実行する事が大切だと思いました。

一番印象に残った事は、英語で「自分が外国人の人としゃべるときは、強気で話すこと。相手の言葉で話しているのだから、相手がわからうとしている」ということです。自然と自分もがんばろうと言う気持ちになり、自信がつきました。私は、他の人との接する仕事があまりないので、接し方や他の国の人たちの考え方などが知りたくなりました。

・ 安藤さんのお話の感想

安藤さんのお話は、主にバックパッカーとして一人旅をした思い出が中心だった。フィンランドに短期留学したことがきっかけで、「この国はわけがわからない」「だから行ってみたい」と思い、南米など、いわゆるメジャーでない国へ行ったらしい。

お話を伺つてまず思ったのは、その積極性に感心した。一人で言葉も通じない国へ行こうなんて私はできるだろうか。国内だって一人で旅行するのは心細いというのに。

6. スピーチの取り組み

スピーチの取り組みは、自分の「進路」について意見や感想をまとめて3分間で発表するものである。4月から個人研究として取り組んできた内容をまとめ、

グループ内で発表し意見を出し合うことが目的である。グループや全体の場で発表することは、自分の考えをまとめるだけではなく、仲間から励ましや質問を受けたり、仲間から影響をうけ自分の生き方についてより深く考えを進めることを目的としている。仲間からの励ましや指摘を受ける中で、自分の意志が固まつたり、考えの甘さを再検討することができた。また、他人の考えを聞くことにより自分の生き方の参考になつてゐるし、友人の意外な面を知ることにもなる。

スピーチ原稿づくりでは、国語科の協力も得られ、国語表現の授業の中でも原稿の添削をしていただいた。この甲斐あってか、例年なく内容の濃い原稿が仕上がったように思われる。

全体でのスピーチは、各グループから代表を三名選出して、体育館で行った。

全体スピーチテーマ

- ・ 寺井グループ（人文・社会学）
 - 「日本とアメリカの教育制度について」「カウンセラーの必要性」「性欲の暴走」
- ・ 丹下グループ（人文・社会学）
 - 「理想の理想」「現時点で考える私が将来やりたいこと」「日本人のアジアに対する偏見」
- ・ 福谷グループ（理系工学・理学）
 - 「世の中について」「なぜ勉強しなければならないか」「人に近い機械をつくること」
- ・ 原グループ（農学・保健医療系）
 - 「熱帯雨林破壊防止について」「進路選択について」「約束とは」
- ・ 川合グループ（教育・体育系）
 - 「競争意識について」「競争と教育」「学力低下について」
- ・ 山田グループ（芸術・専門系）
 - 「妊娠中絶について」「自分の理想の将来像」「言葉

の必要性について」

例年、11月という寒い時期に体育館で行われるが、生徒全員は真剣に話に聞き入ることが出来ている。これは、スピーチ自体がそれぞれの進路・生き方にも関係があり、聞く側にも重要な意味があるので、集中して聞くことが出来るのである。

7. おわりに一生徒が変化したこと

生徒一人ひとりは、「総合人間科」の授業でどのように変化したのか。生徒自身は、大きな変化を感じてはいないようだが、以下の感想にも見られるように、社会の厳しさや自分の考えの甘さを実感し、自らの「生き方」を確固たるものにしつつあるように思われる。

- ・3年の5月までは、進路に対して詳しく考えていたかったけど、ちょっとしたきっかけで大学から専門学校へと考えが変わった。フィールドワークを実施して、ますます希望の学校へ入りたくなった。
- ・全く変わらない。でも、今までにいろいろな人にあって話を聞いて、社会って本当に厳しいなあと思った。自分の好きなことをそのまま仕事にできる人は本当に幸せだなあって。自分もその幸せだなあって思った人たちの中の一人になれるようにならんばろうと思った。
- ・考え方はずっと変わらない。だけど、進路に対する自分の考えが甘かったことを思い知らされた。頑張らないといけないと思った。現実は厳しい。
- ・フリーターから学校に行こうと思うようになった。